

# 宮城県生物多様性 地域戦略

(第一次改訂)



美しい森  
田んぼ  
川  
海がつながり  
子どもの笑顔が  
輝くふるさと  
宮城の実現



宮城県



宮城県生物多様性地域戦略(第1次改訂) **概要版**  
-美しい森・田んぼ・川・海がつながり, 子どもの笑顔が輝くふるさと宮城の実現-

令和2(2020)年3月

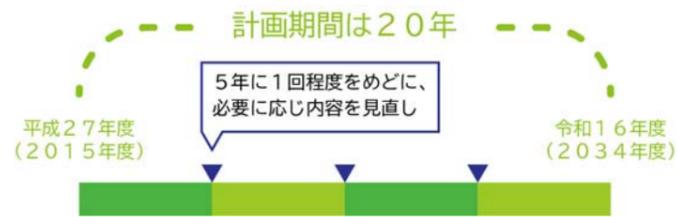
発行/宮城県 環境生活部 自然保護課  
〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目 8-1  
TEL 022-211-2672 FAX 022-211-2693  
E-mail sizens@pref.miyagi.lg.jp

※「宮城県生物多様性地域戦略(第1次改訂)」の本編は  
こちらのWebサイトから御覧になれます。



## 宮城県生物多様性地域戦略の概要

宮城県生物多様性地域戦略とは、本県における「生物多様性の保全」や「自然がもたらす恵みの持続的な利用」に関する、中～長期的な考え方や取組をまとめたものです。



## 生物多様性とは

私たちの暮らす宮城県には、森、川、沼、水田、干潟や海など多種多様な自然があり、そこには色々な形や色、大きさ、個性を持つ生き物がすんでいます。こうした多様な環境の中で、それぞれの生きものが自然を介して他の生きものとの間に関わりを持っている状態を「生物多様性」といいます。

**生態系の多様性**  
多種多様な形態の自然環境

**種の多様性**  
多種多様な生物種

**遺伝子の多様性**  
同じ種でも異なる遺伝子

※すべてナミテントウ

## 生態系サービス —なぜ大切なのか—

生物多様性を基盤とする生態系は、私たちの暮らしに大きな恵みを与えてくれます。その恵みを「生態系サービス」と呼び、4つのサービスで構成されています。

**供給サービス**

食料や木材など、衣食住を支えてくれます。

**調整サービス**

気候の調整など、安全な暮らしを守ります。

**文化的サービス**

伝統文化や自然が、人間の生活を豊かにします。

**基盤サービス**

一次生産（光合成）による有機物の合成、水循環、土壌生成などであり、供給・調整・文化的サービスの基盤となります。

## 各主体に求められる主な役割

本戦略を推進するために、各主体に求められる主な役割は以下の通りです。各主体が連携・協力して取組を進めることが期待されます。

**県民**

- ◆生物多様性の重要性に対する理解度の向上
- ◆自然に優しい方法で採取・生産された商品やサービスの購入
- ◆自然への負荷が少ない日常生活

**民間団体(NPOなど)**

- ◆生物多様性の保全に関する取組の中核的な担い手
- ◆専門的な知識や豊富な経験を生かした、多様な主体との連携・協働・活動の継続的なサポート

**事業者(農林水産業従事者、企業など)**

- ◆事業活動による生物多様性への影響を最小化するための取組の実施
- ◆環境負荷の少ない生産物や製品の普及・拡大

**教育機関**

- ◆学校教育を通じた、身近な自然と触れ親しみ、命の尊さを実感する機会の創出
- ◆大学や研究機関では、生物多様性に関する基礎情報の蓄積と分析、その成果の普及・啓発

**学識者**

- ◆生物多様性に関する専門的知見の共有
- ◆環境教育などを通じた生物多様性に関する情報発信

**県**

- ◆基本的取組に関する施策の総合的かつ計画的な推進
- ◆県の施策や事業を通じた生物多様性保全の推進

**国**

- ◆国際協力が必要な取組など、必要に応じた諸外国との連携
- ◆各取組の実施や指標達成のための協力・助言

**市町村**

- ◆各市町村が行う施策や事業の実施を通じた、生物多様性の保全
- ◆単独又は複数の市町村の連携による、市町村版の生物多様性地域戦略の策定

6

## 将来像の実現に向けた基本的取組

3つの基本方針を踏まえ、将来像の実現のために取り組む「10の基本的取組」を示します。

### 基本方針Ⅰ 豊かな自然を守り育てる — 私たちの命と生活を支える、ふるさと宮城の自然を大切に育む —

- 基本的取組1 在来の野生生物の保全
- 基本的取組2 良好な自然環境の保全・再生
- 基本的取組3 自然と共生する農林漁業を通じた農地、森林、沿岸域の生物多様性の向上
- 基本的取組4 開発事業における生物多様性への配慮



外来生物の駆除活動



植栽による自然環境の再生



環境保全型農業



生きものに配慮して整備された石積み護岸

### 基本方針Ⅱ 豊かな自然の恵みを上手に使う — ふるさとの自然や生きものがもたらす恵みに感謝し、恵みを大切に使う —

- 基本的取組5 生物多様性に配慮した生産・消費
- 基本的取組6 宮城ならではの自然の恵みを生かした商品やサービスのブランド化
- 基本的取組7 自然が有する多面的な機能を生かした防災・減災の取組



適切な森林管理により得られた木材で作られた製品



環境に配慮した農法で生産された特別栽培農産物



多面的機能を有する森林の管理を担う人材の育成

### 基本方針Ⅲ 豊かな自然を引き継ぐ — 自然や生きものと共に生きることの意味や素晴らしさを地域で共有する —

- 基本的取組8 県内の生物多様性の価値の共有
- 基本的取組9 子どもが自然に触れ親しみ、学ぶことのできる環境づくり
- 基本的取組10 多様な主体の参加・協働



生物多様性フォーラムの開催



自然とふれあう子どもたち



子どもたちへの環境教育

## 生物多様性の危機 —なぜ戦略が必要か—

日本の生物多様性は4つの危機にさらされています。これらの危機から生物多様性を守り、私たちの暮らしをより豊かなものにするために、「宮城県生物多様性地域戦略」を推進する必要があります。

### 〈生息・生育地及び種の減少〉

開発や乱獲などにより、生きものの生息地や生育地が悪化・減少し、生きものの種類も少なくなっています。



乱獲により数を減らすハマボウフウ

### 〈自然の質の低下〉

人の手によって維持されてきた耕作地などが利用されなくなり、生態系のバランスが崩れ、里地里山に適応してきた生きものが絶滅の危機にあります。



耕作放棄地

### 〈外来生物や化学物質などによる生態系のかく乱〉

外来生物による在来種の捕食、化学物質やマイクロプラスチックの摂食などによって、生態系がかく乱されています。



外来生物オオクチバス

### 〈地球環境の変化〉

温暖化による生きものの生息・生育環境の変化、農林水産物への影響、異常気象による生物多様性への影響が懸念されます。



水稻栽培への影響

## 宮城の自然環境の現状

### 山

- ◆栗駒山のような高山から里山まで、大小さまざまな山が連なり、それぞれの環境に応じた多様な動植物が生息・生育しています。
- ◆里山では、人工林の放置、雑木林の荒廃などにより、生物多様性が失われつつあります。



### 平野

- ◆平野部には、水田が広がり、居久根や池沼などが点在し、多様な生きものの住処となっています。
- ◆耕作放棄地の増加やそれに伴う獣害の拡大などにより、様々な問題が起きています。



### 川

- ◆奥羽山脈や北上山地などを水源とする大小の河川が流れています。水辺や河川敷は、様々な動植物の生息・生育地を提供するとともに、身近な自然として、県民に親しまれています。
- ◆セイタカアワダチソウなど様々な外来生物が侵入し、在来の生態系に影響を与えています。



### 海

- ◆海岸は、リアス海岸と砂浜海岸に分けられます。沿岸には干潟や藻場、沖合には黒潮と親潮がぶつかる潮目があり、生物多様性に富んだ環境が形成されています。
- ◆東北地方太平洋沖地震による津波は、沿岸の干潟や藻場に大きな影響を与えました。



# 宮城県の生物多様性に関する将来像と基本方針

本戦略の計画期間（平成27年度から令和16年度までの20年間）において目指す「本県の姿（将来像）」及び「子ども達や将来世代に引き継ぐ県土のイメージ」を以下のように決めました。また、将来像の実現に向けて私たちが共有したい考え方である「基本方針」を右に示します。

## 《宮城の目指すべき将来像》

**自然に寄り添い、自然と共に生きるふるさと宮城**  
 -美しい森・田んぼ・川・海がつながり、子どもの笑顔が輝くふるさと宮城-

### 3つの基本方針

- (1) 豊かな自然を守り育てる  
私たちの命と生活を支える、ふるさと宮城の自然を大切に育みます。
- (2) 豊かな自然の恵みを上手に使う  
ふるさと宮城の自然がもたらす様々な恵みに感謝し、自然の恵みを持続的に利用します。
- (3) 豊かな自然を引き継ぐ  
身近な自然や生きものの大切さや素晴らしさ、楽しさや、自然と共に生きることを意味を地域全体で共有し、将来世代に引き継ぎます。



山地帯を飛翔するクマタカ



豊かな森



生きものと共生する農業



親しまれる河川



飛来するシジュウカラガン



自然に親しみ学ぶ



沿岸部に広がる藻場



伝統文化の伝承